

小田急電鉄総合車両所移転計画  
環境影響予測評価実施計画書  
補足資料

令和 5 年 5 月 29 日

小田急電鉄株式会社

# 目次

2-1	使用が想定される化学物質について	1
2-2	使用が想定される化学物質の農業用水路等への流出について	1
4-1	各施設から発生する騒音について	5
13-1	事業実施区域周辺における浸水状況について	6
13-2	上流側の流域での水量の評価について	7
13-3	河川流量の調査時期について	8
21-1	工事用車両の走行台数等について	9

## 2-1 [水質汚濁] 使用が想定される化学物質について

### 【質問】

総合車両所で使用が想定され、現在相模大野総合車両所で使用されている水質汚濁の対象となる化学物質の使用状況について、説明して欲しい。

### 【回答】

大野総合車両所で使用される化学物質の中で、水質汚濁防止法で定められている有害物質・指定物質については、「六価クロム化合物」「トルエン」「キシレン」がございいます。「六価クロム化合物」については、車両の床材の一部に使用されており、「トルエン」「キシレン」については塗料や有機溶剤に使用されております。

## 2-2 [水質汚濁] 使用が想定される化学物質の農業用水路等への流出について

### 【質問】

総合車両所の排水については、雨水等とは別系統で公共下水につなぐとしているが、排水が周囲の農業用水路や雨水系統に流出するおそれがないのか、場内の排水計画について、説明してほしい。

### 【回答】

現時点での農業用水路の切り回し計画および雨水排水系統・汚水排水系統を図2-2-(1)に示します。ただし、農業用水路、雨水排水・汚水排水路の位置については、今後の計画の検討及び関係機関との協議等により変更となる可能性がございいます。

図に示すように農業用水路、雨水排水路は、汚水排水路と経路を別とし、総合車両所から発生する汚水は、浄化処理後に直接公共下水道に排出いたします。一部屋外で作業が行われる車両洗浄作業についても、床面をコンクリートで舗装し、排水を側溝等により確実に回収するため、総合車両所の排水が、雨水排水等に流出する恐れはないと考えております。

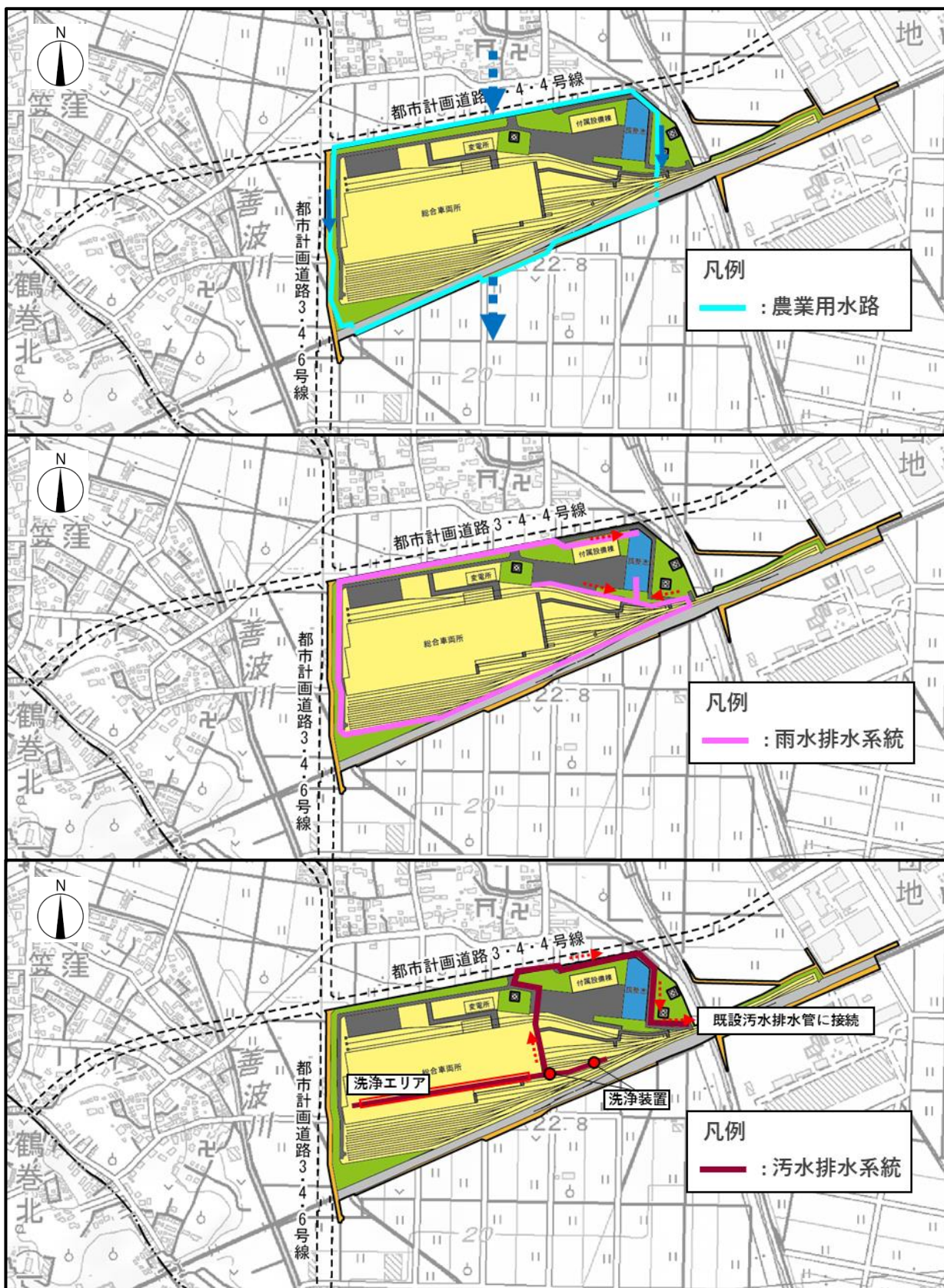


図 2-2-1 (1) 農業用水路、雨水排水・污水排水系統

## 【参考】車両洗浄排水について（洗浄工程）

### 工程① 洗浄液による洗浄

車両の洗浄を行う場合、まず洗浄液の吹き出る洗浄機を通過し、洗浄液の吹き付けとブラシにより車両側面の洗浄を行います。その際に発生する洗浄液については、床面がコンクリートとなっており、垂れた洗浄液は排水処理装置に回収されます。（写真1）

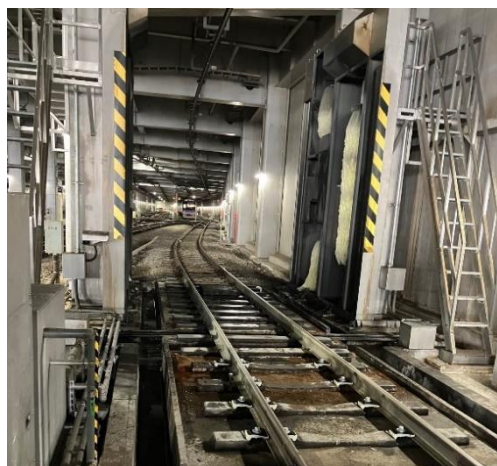


写真1 車両洗浄装置(薬液洗浄)

### 工程② 水洗い

洗浄液による洗浄を行ったあと、次の洗浄機により水流しと同時にブラシにより再度洗浄を行います。水による洗浄で発生した排水についても、排水処理装置へ回収されます。

上述した工程①とともに、1回の車両移動で行われます。（写真2）

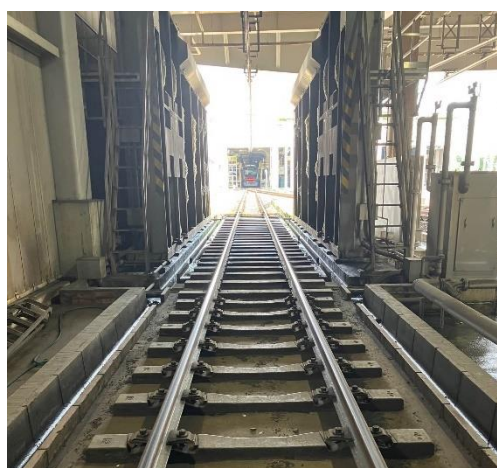


写真2 車両洗浄装置(水洗い)

### 工程③ 作業員による細部洗浄

工程①・②を終了した車両はそのまま車両洗浄線（写真3）へと移動し作業員により車両全面や車両連結間および洗浄機により落としきれなかった細かな汚れを落とします。



写真3 車両洗浄線

・洗浄線発生した排水について

洗浄線で発生した排水は、床面にて中央の溝に集められ、(写真4・5)排水処理装置により適正な処理を行い公共下水道に流されます。(写真6)



写真4 床面排水状況①



写真5 床面排水状況②



写真6 排水処理装置

#### 4-1 【騒音】 各施設から発生する騒音について

##### 【質問】

計画している各施設から発生する騒音のレベルについて、説明してほしい。また、計画地と相模大野総合車両所の周辺の騒音環境の比較に係る検討結果について、説明してほしい。

##### 【回答】

大野総合車両所で、過去に実施した作業環境の騒音測定では、主な騒音の発生場所として、気吹きによる洗浄作業、グラインダーによる研磨作業が行われる場所で測定を行っており、発生地点における等価騒音レベルでそれぞれ、80~90dB、70~80dB となっています。

計画地と大野総合車両所の周辺環境の違いとしては、大野総合車両所では、車両所建屋から直近の住居までの距離が6~7m程度であるのに対し、計画地では100m以上の離隔があり、発生源となる機器の配置を工夫することで、十分な低減が図られると考えております。

13-1 [水象] 事業実施区域周辺における浸水状況について

【質問】

浸水想定区域における盛土を計画していることから、既往最大降水量に対する事業実施区域周辺の浸水状況について、説明してほしい。

【回答】

平成以降の実施区域周辺での水害履歴を表13-1-(1)に、被害のあった位置を図13-1-(1)に示します。被害のほとんどは市道81号線の局所的な道路冠水です。時雨量50.5mm(平塚)を記録した2013年4月6日では実施区域内の下水マンホールから溢水がありましたが、内水氾濫も含めて河川の氾濫は確認されませんでした。

表13-1-(1) 実施区域周辺の水害履歴

No.	年月日	災害・警報等	場所	被害状況	日雨量(mm)	時雨量(mm)
1	1991/9/19	台風18号	①	道路冠水	203.0	33.0
2	2008/8/30	大雨・洪水警報	①	道路冠水	71.5	24.0
3	2009/8/10	大雨・洪水警報	①	道路冠水	63.0	35.5
4	2013/4/6	大雨・洪水警報	②	下水マンホールから溢水	115.5	50.5
5	2013/9/15	台風18号	③	道路冠水	172.5	52.5
6	2021/9/18	台風14号	①	道路冠水	143.5	45.0
7	2022/5/27	基準雨量超過	①	道路冠水	15.5	6.5

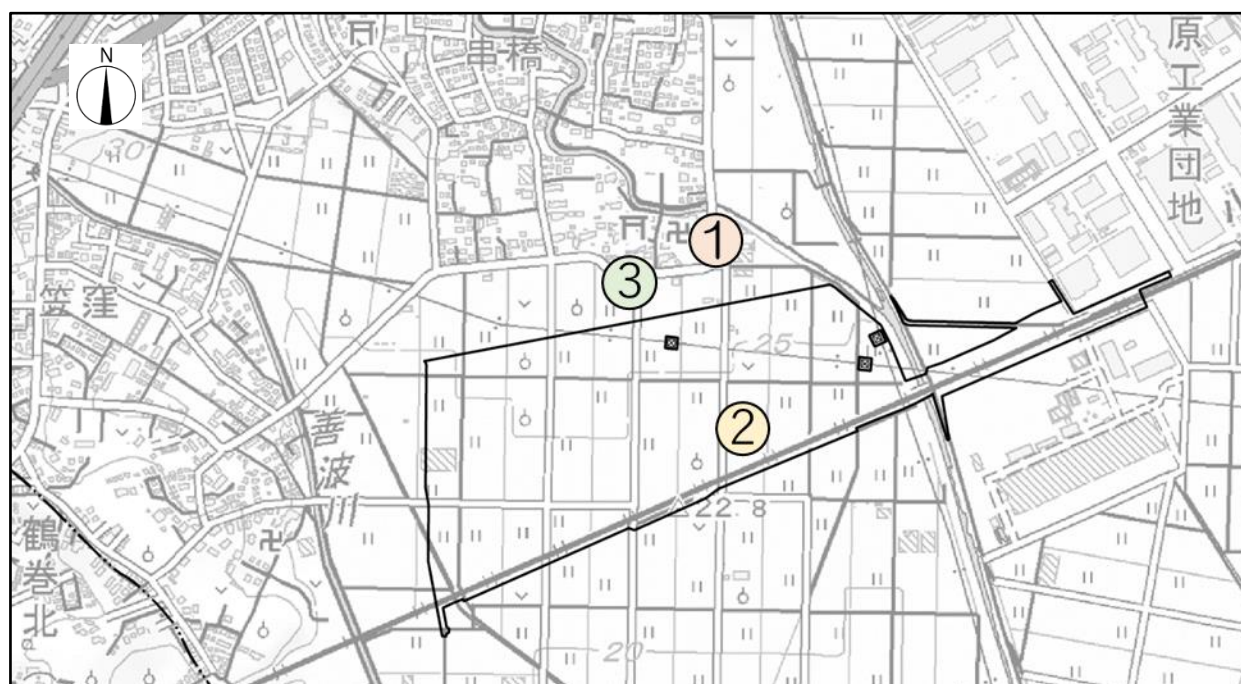


図13-1-(1) 水害箇所位置図



## 1 3 - 2 [水象] 上流側の流域での水量の評価について

### 【質問】

計画に伴う上流側の流域での水量の評価に係る検討結果について、説明してほしい。

### 【回答】

今回の事業実施区域は、善波川及び鈴川の一部の流域内に位置しています。

各流域の総面積は、約 5.2km<sup>2</sup>（善波川約 4.6km<sup>2</sup>、鈴川の一部約 0.6km<sup>2</sup>）であることに対して、盛土を行う範囲の面積は約 0.1km<sup>2</sup> であり、流域全体に占める割合は 1.9%程度であることから、今回の計画に伴う流域全体の水量等への影響は軽微であると考えています。

13-3 [水象] 河川流量の調査時期について

【質問】

河川流量の調査時期を豊水期及び低水期の各1回としているが、降水量の多い日に調査しなくてよい  
か、豊水期に調査するタイミングについて、説明してほしい。

【回答】

河川流量については主に既存資料調査により状況把握をすることとしており、現地調査については実  
施区域近傍における現状把握のために実施するものです。

豊水期に調査するタイミングは、月間雨量の多い時期である7月～10月頃を想定しています（下表の  
月別降水量を参照）。

表13-3-(1) 降雨量の概況

月別	降水量 (mm)				
	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年/ 令和元年	令和2年
1月	68.5	24.5	62.5	11.0	63.5
2月	87.0	14.5	12.5	38.0	22.0
3月	97.5	91.5	216.5	91.0	128.5
4月	139.0	100.5	131.5	127.5	201.0
5月	91.0	64.0	132.5	168.0	65.0
6月	134.5	124.5	112.5	200.0	141.5
7月	105.0	42.0	214.5	116.0	396.0
8月	340.0	107.0	115.5	75.5	41.0
9月	212.0	183.0	274.5	114.0	79.0
10月	66.5	368.0	33.5	463.0	84.0
11月	106.0	34.0	29.0	84.0	7.5
12月	70.5	14.0	55.0	67.0	8.5
合計	1517.5	1167.5	1390.0	1555.0	1,237.5

注) 伊勢原市消防本部調べ

資料: 「統計いせはら (令和3年版)」 (令和3年10月 伊勢原市)

2 1 - 1 [安全 (交通)] 工事用車両の走行台数等について

【質問】

工事用車両の主な走行ルートである東側ルート（未整備都市計画道路、幅員 16m）及び西側ルート（既存道路）の走行が想定される工事用車両の内訳、台数及び工事工程について、説明してほしい。

【回答】

現時点で想定される工事の実施工程を表 2 1 - 1 - (1) に、各工事における工事車両の内訳及び台数を表 2 1 - 1 - (2) に示します。車両台数は各工事において 1 日当たりの最大数を表記しておりますが、今後の計画の検討及び関係機関との協議等により変更となる可能性がございます。また、各工事が輻輳する期間がございますが、工事車両が集中しないように工事量の平準化を図ります。

表 2 1 - 1 - (1) 実施工程

工事等	2027 年度	2028 年度	2029 年度	2030 年度	2031 年度	2032 年度	2033 年度
機能補償工事 (農業用排水路・下水・道路付け替え)							
盛土・擁壁・基礎工事							
車両所工事 (建築・軌道・機械・電気工事)							
操業							→

表 2 1 - 1 - (2) 工事車両の内訳及び台数(想定)

		機能補償工事 (農業用排水路・下水・道路付け替え)	盛土・擁壁・基礎工事	車両所工事 (建築・軌道・機械・電気工事)
工事日数 (稼働)		1 4 4 0 日 (960日)	1 0 8 0 日 (720日)	1 0 8 0 日 (720日)
主な工事用車両		コンクリートミキサー車、 ダンプトラック、トラック 等	コンクリートミキサー車、 ダンプトラック、トラック 等	コンクリートミキサー車、 ダンプトラック、トラック、 ラフテレーンクレーン 等
西側ルート	工事車両	最大50 (台/日) 程度	/	/
	通勤車両	最大10 (台/日) 程度		
東側ルート	工事車両	↓ ルートが整備され次第、東側ルートへ移行	最大360 (台/日) 程度	最大85 (台/日) 程度
	通勤車両		最大25 (台/日) 程度	最大220 (台/日) 程度

※現時点での想定台数であり、今後の計画の検討及び関係機関との協議等により変更となる可能性がある。